

事業実施報告

開催日	令和4年1月15日（土）～令和4年1月16日（日）		
事業名	親子ウインターキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 雫石スキー場	参加人数	13家族42名
対象	スキーが苦手な6歳～小学校3年生の子どもとスキー初心者の保護者		
関係機関名	インターアルペン雫石スキースクール（事前指導・スキーレッスン）		

状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、手作りそり作り・そり滑り・インターアルペン雫石スキースクール講師による事前指導・同講師による家族ごとのスキーレッスンの4つのプログラムを行った。

手作りそり作りでは、段ボールやブルーシート、緩衝材、ビニール袋等を使用して、家族ごとにそりを作り上げた。家族3、4人が乗ることができる大きなものや屋根を付けたものなど、家族ごとに様々な創意工夫が見られ、親子で共通したものづくりを楽しんでいる様子が見られた。

そり滑りでは、制作した手作りそりを使用し、職員の安全管理のもと、家族ごとに楽しんだ。

スキースクール講師による事前指導では、体育館に敷いたマットの上で、講師の指導のもと、実際にスキーを着脱したり、スキーを履いて方向転換をしたりした。

スキースクール講師による家族ごとのスキーレッスンでは、雫石スキー場に移動し、前日の事前指導で学んだことを生かしながら実際にスキーを行った。講師の指導の中で、子どもへの技術的な指導だけでなく、親へスキー場での子どもとの関わり方を伝えている場面が見られた。

〔成果〕

- ・事業後のアンケートにおいて、「今後、家族でスキーを行おうと思いますか」の設問に対して、「したい」「ややしたい」を合わせて100%であった。これにより、家族での体験活動を継続して行いたいという意欲を高めることができたといえる。
- ・抽選の結果、当選から漏れた家族をすべてキャンセル繰り上げ対象者としたことで、参加者の減少を極力防ぐことができた。
- ・新型コロナウイルスの影響により、社会教育実習生が事業に参加できなくなったため、急遽職員のみで事業運営をすることとなった。しかし事前に各職員の配置をすべて割り振ったため、円滑に事業を進めることができた。事業後のアンケートでは、職員の対応に関する満足度は100%であった。
- ・スキー講師による事前指導によって、雪上で必要な動作を事前に確認できた。それにより、スキーレッスンをスムーズに始めることができた。

〔課題〕

- ・スキーレッスンの目的は、講師がいなくても家族でスキーを楽しめるようにすることである。子どもに技術的なアドバイスをするのはではなく、親がスキー初心者の子どものスキーを楽しむための関わり方をスキー講師から積極的に伝えてもらえるよう、インターアルペン雫石スキースクールと綿密に打ち合わせをする。
- ・事前事後スケジュールを見直し、購入物品の購入や関係機関との打ち合わせを早期に行えるようにする。
- ・体育館等の特定の場所を事業で使用する際は、会場設営や撤去作業までを考え、余裕を持った時間で活動場所を抑えるようにする。
- ・初めての試みとして、事業アンケートをGoogleフォームを用いて行った。Googleアカウントにログインできないという家族が1家族あり、郵送で回答いただくよう対応した。回答方法をあらかじめ十分に参加者に周知する。

状況写真



様々な工夫を凝らして手作りそりを制作



スキー講師の指導のもと、スキーの基本を学ぶ



自分たちの手作りそりでそり遊びを楽しむ



ゲレンデで家族ごとにレッスンを受ける

注1) フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2) 状況写真は4～6枚掲載し、キャプションを付すこと。